

# パブリックソリューション

## 事業部長メッセージ

官公庁・自治体やインフラ企業への社会インフラを支えるソリューション提供により、安心・安全な、利便性の高い社会へ貢献し成長を目指します。



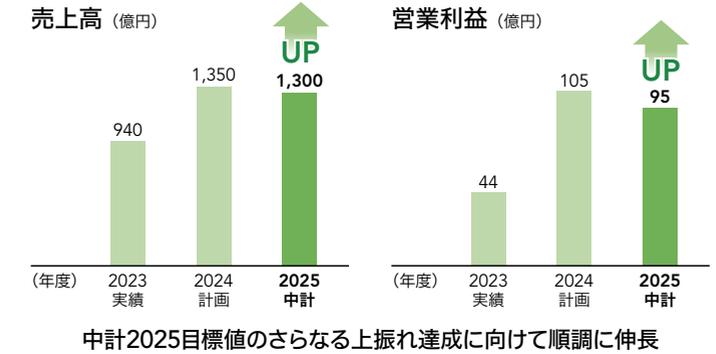
災害激甚化、労働力不足といった社会課題を、新たな消防システム、高度な防災システム、自動運転・V2Xインフラといったソリューション、利便性の高い業務システムの提供により解決し、安心・安全な社会インフラの構築を目指します。

執行役員 社会インフラソリューション事業部長  
井上 肇



国内防衛予算の増加、安全保障の強化や地球環境の保全が重要視される中で、国内唯一の海上計測施設の計測バージ（SEATEC NEO）による水中音響試験サービスなど、特色のある商品・ソリューションを提供することで、持続ある成長につなげていきます。

上席執行役員 特機システム事業部長  
加藤 洋一



## 事業概要

官公庁やインフラ企業向けに社会を支えるミッションクリティカルなソリューションを提供しています。航空管制システム、ETC、プローブ交通情報、消防指令・無線システムや市町村防災無線など防災ソリューション、その他、中央官庁向け業務ソリューション、防衛関連システム、エッジからバックボーンに至るネットワークなどが対象となります。また、民間航空機のディスプレイを提供しています。



## 事業方針

「社会のインフラ」に関わるお客様の期待に応える価値あるソリューションを提供し続け、お客様とともに成長・発展することを事業方針として掲げています。その中で、大規模更改が予定されている消防領域の消防システムにおいて、安定した収益の確保を目指すため、新商品投入によるシェア拡大を目指します。また、交通領域の自動運転・V2Xにおいて将来の成長への種まきを推進します。

堅調に推移する防衛ビジネスにおいては、国内市場拡大に追従するため、生産拡大と提案力強化を推進していきます。生産拡大については、計測バージの更新による海洋計測の効率化や生産ラインへの設備投資を行っていきます。成長する海洋市場に向け、OKIの得意とする「音」に関するコア技術の応用により市場拡大を図り、新規市場の獲得も目指します。同時に海洋に関する国家プロジェクトへの参画を始めています。また、グローバル展開推進においては、シンガポール拠点を設立し、海外販路拡大を目指します。

## 事業環境の認識

機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内防衛予算の増加および輸出市場の形成</li> <li>海洋開発に対するニーズの高まりおよびシーズの発展</li> </ul>
脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の優位性低下による価格競争激化</li> <li>国内防衛予算の増加に伴う、海外メーカーの参入意欲の高まり</li> <li>AI技術など、従来の延長線上にない技術・メーカーの参入機会増加</li> </ul>

## 事業の強み、課題

強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>長年培ってきた顧客基盤、インストールベース<sup>※</sup>、サービス、運用、保守</li> <li>ネットワークの仮想化技術、光伝送技術（波長、帯域制御）</li> <li>水中音響に関わる技術（センサー、信号処理、海上試験など）</li> </ul>
課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産拡大に向けたリソース不足に対する他事業・工場間のリソースの再分配、設備投資</li> <li>特色あるソリューション・製品の不足に対し、防衛・民間問わずに水中音響通信ソリューションおよび製品を開発</li> </ul>

※インストールベース：エッジ領域の機器群およびそれらを核としたソリューションの実績

パブリックソリューション

中期経営計画2025 (成長への舵切り1st Stage)

中期経営計画2025の重点施策として、消防システムなどにおける差別化新商品の開発・投入により消防・防災・道路の更改需要を確実に獲得することを掲げています。

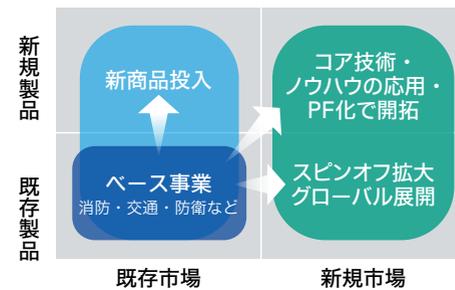
市場の更改計画も想定どおりに堅調であり、強みを強化した新商品の投入により消防・防災・道路の各領域で更改需要を順調に獲得しています。

市場・業務に特化したプラットフォームによる新領域への参入に向けては、2024年度、事業・営業を一体化したクロスインダストリー事業推進センターを設立し、協働パートナーとの実証や導入に向け加速して推進する体制を整えました。

特機システム事業に関して、国内防衛市場の成長に対応するだけでなく、海洋市場へも事業領域を拡大する取り組みを実施してきました。その足掛かりとして、海洋関連のプログラムへ参画することができました。このプログラムに参画することで、これまでのOKIの技術や経験を活用するだけでなく、外部の知見や新しいコネクションを獲得し、さらなる事業領域拡大へつなげていきます。

また、民間航空機の分野では、ポートフォリオ見直しにより、販路を拡大し、持続的な成長へ向けた取り組みを行っています。並行して、シンガポールに新しく拠点を設立しました。ここを起点として海外への販路拡大に取り組んでいきます。

成長の方向性



2031年の目指す姿 (成長への舵切り2nd Stage以降)

社会インフラソリューション事業部

2031年に向けてインストールベースの強みを活かし、自動運転を見据えた道路交通情報のデータを利活用した商品、消防防災・地域防災の連携した次期商品の検討・開発を進め社会課題の解決を推進します。また、ネットワークSI力の強みを活かし、大型自営ネットワークを保有・構築している事業者へ参入し、領域の拡大を目指します。

特機システム事業部

海洋市場に向けて水中音響通信デバイスのような特色ある製品およびソリューションの開発により、海洋市場でのキープレーヤーとなります。また、民間航空機分野では、ヨーロッパ市場に加え、北米市場へコックピットディスプレイの販路を拡大します。

新技術の開発

1対1の通信だけでなく、1対Nの通信およびマルチホップによる遠距離通信も活用することで、広範囲な水中ネットワークを形成する

水中無線通信ネットワークの将来像図



TOPICS 価値創造マテリアリティ | 地球環境の保全

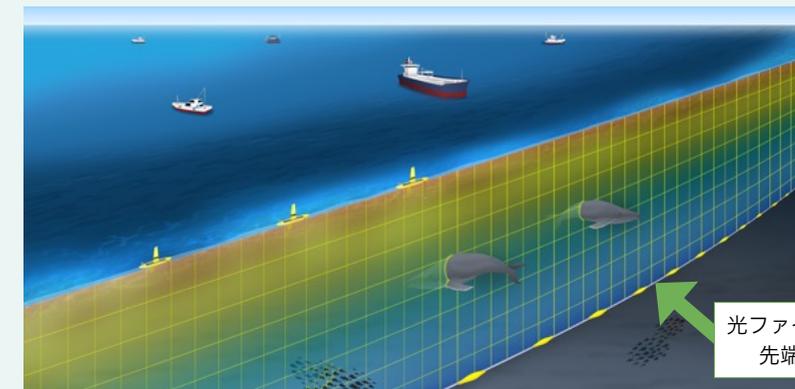
成長領域である「海洋」に関連して、OKIは積極的に事業創出に取り組めます。

その第一歩として、国立研究開発法人科学技術振興機構が進める「先端センシング技術を用いた海面から海底に至る海洋の鉛直断面の常時継続的な観測・調査・モニタリングシステムの開発」(代表：国立研究開発法人海洋研究開発機構)に参画します。

本プログラムで構築するシステムは、海洋の鉛直断面を通過した物と海況をリアルタイムで把握するものです。OKIは、先端センシングケーブルなどの開発によってこのプログラムの推進に関わります。

本プログラムに参画することで、安全保障および海洋資源把握へ貢献できるだけでなく、海洋に関わる知見を獲得でき、海洋での事業創出の礎を築くことができます。

詳細は、スマートセンシング技術開発プロジェクトチーム (JAMSTEC Webサイト) をご参照ください。  
<https://www.jamstec.go.jp/smartsensing/j/>



光ファイバーセンサーを備えた先端センシングケーブルを用いて海洋データを取得することで、海洋データベースの構築や関連技術によるデータ分析を通してブルーエコノミーを推進

光ファイバーセンサーを備えた先端センシングケーブル